



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月6日

上場会社名 株式会社ダイフク 上場取引所 東
 コード番号 6383 URL <https://www.daifuku.com/jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 下代 博
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務本部長 (氏名) 日比 徹也 (TEL) 06-6472-1261
 四半期報告書提出予定日 2020年11月9日 配当支払開始予定日 2020年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)
 (百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	230,006	10.2	19,669	13.8	20,344	15.5	14,732	11.9
2020年3月期第2四半期	208,734	△0.9	17,286	△25.2	17,619	△25.8	13,168	△39.6

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 13,665百万円(29.3%) 2020年3月期第2四半期 10,565百万円(△44.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	116.98	—
2020年3月期第2四半期	104.65	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	432,292	245,990	55.8
2020年3月期	410,887	237,356	56.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 241,209百万円 2020年3月期 232,961百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	30.00	—	45.00	75.00
2021年3月期	—	30.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	45.00	75.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	460,000	3.7	41,000	1.2	41,800	2.0	29,000	3.3	230.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期2Q	126,610,077株	2020年3月期	126,610,077株
2021年3月期2Q	637,983株	2020年3月期	703,806株
2021年3月期2Q	125,942,430株	2020年3月期2Q	125,842,949株

(注) 期末自己株式数には、株式給付信託(BBT)およびダイフク従業員持株会専用信託が保有する自己株式を含んでおります。株式給付信託(BBT)が保有する自己株式数は、2021年3月期第2四半期末 122,400株、2020年3月期末 159,100株であります。また、ダイフク従業員持株会専用信託が保有する自己株式数は、2021年3月期第2四半期末 31,900株、2020年3月期末 61,900株であります。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

連結業績予想の数値は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により上記予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項につきましては、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は、TDnetで11月6日に開示し、同日、当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界の経済は、2020年初頭より影響が顕在化し始めた新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、景気が急速に悪化しました。6月以降、経済活動を再開する動きが日本をはじめ各国で見られましたが、いまだに収束時期が見通せないうえに、ハイテク分野を巡る通商問題も加わって、先行き不透明な状況が続いています。

このような経済・事業環境のもと、当社グループの受注は、移動や出社、面談の制限、お客さまの休業等による商談の遅れなどから前期の実績にはおおよびませんでした。売上は、豊富な前期末受注残高をベースに順調に推移しました。

この結果、受注高は1,893億8百万円（前年同期比11.7%減）、売上高は2,300億6百万円（同10.2%増）となりました。

利益面では、国内の一般製造業・流通業向けシステムがけん引し、順調に推移しました。

この結果、営業利益は196億69百万円（同13.8%増）、経常利益は203億44百万円（同15.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は147億32百万円（同11.9%増）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の当社グループの平均為替レートは、米ドルで108.25円（前年同期109.98円）、中国元で15.32円（同16.23円）、韓国ウォンで0.0894円（同0.0960円）となりました。為替の変動により、受注高は前年同期比で約53億円減少しました。売上高は約38億円減少しましたが、営業利益への影響は軽微でした。

〔新型コロナウイルス感染症の影響〕

当社グループが提供するシステムは、社会活動に不可欠なインフラを構成するEssential Businessと位置付けられるケースが多く、新型コロナウイルス感染症拡大の渦中にあっても事業活動継続への強い要望がありました。

当社グループでは、社長をトップとする対策本部を早期に立ち上げ、社員やその家族、お客さま、取引先の安全確保を最優先とし、各地行政機関の指導やお客さまの方針に従いながら、対策に当たってきました。営業・管理系を中心とした社員については、構築済みのITインフラを活用した在宅勤務や時差出勤などを機動的に実施しました。

当社グループ業績への新型コロナウイルス感染症の影響は、主に受注面で現れました。第2四半期は日本で受注計上時期の遅れが目立ち、8月6日の第1四半期決算発表時に公表した上期予想数値2,000億円に届きませんでした。

これは、第1四半期に営業活動が制限されたことによるものですが、第2四半期以降は商談も進んでおり、引合い状況も通年並みに戻りつつあります。第3四半期の受注は期ずれした案件も含め大きく回復する見込みです。

一方、部品の調達難や工事遅延の影響が一部であったものの、生産や工事は全体として順調に進捗しており、売上や利益は予想数値を上回りました。

地域別の影響は、以下のとおりです。当社グループのうち、株式会社ダイフク、株式会社コンテックをはじめとする国内の会社は3月末決算、海外子会社はそのほとんどが12月末決算のため、それぞれ2020年4月から9月末、2020年1月から6月末までの期間の状況を記載しています。

・日本

当社グループの主力生産拠点である滋賀事業所は、支障なく生産活動を続けることができました。第1四半期には調達が難しくなる可能性のあった一部の輸入部品を、予め国産の代替品に変更することで、コストよりも納期を守ることや、お客さまへ納入した設備の稼働を止めないことを優先しました。第2四半期以降は正常に戻っています。

・アメリカ

半導体工場や流通業向けでは、お客さまの多くが操業を続け、工事・サービス活動も継続しました。一方、自動車生産ライン向けシステムでは、お客さまの工場休業により工事・サービスが一時休止状態となりましたが、その後は通常の事業活動を継続しています。

空港向けシステムは、空港運営会社が長期的に進める案件が多いため、大きな影響は受けていません。オペレーション&メンテナンスは、旅客数の減少に伴い、現時点では規模を縮小しての運営が続いています。

- ・中国

当社子会社、お客さまともに出社・移動が一時、大幅に制限され、武漢近郊では本格稼働を5月まで待つ必要がありました。このため、受注時期や工事の進捗が遅れ気味に推移し、一部の案件で遅延を取り戻すためのコストが増加しました。第2四半期以降、中国経済全体の回復は顕著であり、事業環境が改善しています。

- ・韓国

工場を休止することなく操業を続けることができ、比較的小さな影響で推移しました。

- ・その他

台湾・タイの工場は休止することなく操業を続けることができ、回復基調にあります。タイ以外の東南アジアやインドは、事業活動の停滞が続いており、依然として進捗が遅れています。欧州、オセアニアは、事業活動が一時停滞していましたが、徐々に案件が動き出しています。

[アフター・コロナ社会に向けて]

当社グループの主力事業であるマテリアルハンドリングシステムは、近年、グローバル規模でのヒト・モノの動きの増加、流通形態の変革やIoTなどの技術革新による産業構造の変化、人手不足による自動化投資など、幅広い産業界のニーズに支えられ力強く成長してきました。

新型コロナウイルス感染症により、産業界全体の先行きが見通し難い状況にありますが、eコマースのさらなる拡大、5G通信やデータセンター向け半導体の需要増加など新たなニーズも見込まれ、中長期的な成長を目指せる環境に大きな変化はありません。

当社グループが提供するシステムは、人手不足の解消や、リードタイムの短縮に資するだけでなく、省人化によって「密」を防ぐこともできます。今後、人の手を介さないための自動化へのニーズはさらに加速すると考えられます。コロナ前とは違う新たな日常「ニューノーマル」社会の構築に貢献できる、新たな物流ソリューションを開発・提供していきます。

[セグメントごとの業績]

セグメントごとの業績は次のとおりです。受注・売上は外部顧客への受注高・売上高を、セグメント利益は親会社株主に帰属する四半期純利益を記載しています。

報告セグメントに関する詳細は、後記（セグメント情報等）をご参照ください。

① 株式会社ダイフク

受注は、移動制限等により商談が進まなかった影響が、半導体・液晶生産ライン向けシステムの輸出案件や、一般製造業・流通業向けシステムに見られたほか、自動車生産ライン向けシステムも伸び悩みました。

売上は、半導体・液晶生産ライン向けシステム、自動車生産ライン向けシステムはお客さまの業界の事業環境の厳しさを反映して減少しましたが、一般製造業・流通業向けシステムは豊富な受注残高をベースに順調に推移したことが寄与し、全体としては増加しました。

セグメント利益は、主に一般製造業・流通業向けシステムの売上増、収益率改善により、増加しました。

この結果、受注高は812億23百万円（前年同期比22.1%減）、売上高は999億28百万円（同6.6%増）、セグメント利益は97億44百万円（同31.4%増）となりました。

② コンテックグループ

日本市場では、先行き不透明感に伴い産業界全体が設備投資に慎重になっていることから、産業用コンピュータやIoT機器製品の売上が減少しました。

米国市場では、空港セキュリティ関連や製造業の設備投資は鈍化していますが、医療機器向けの産業用コンピュータの売上は底堅く推移しました。

セグメント利益は、前期に計上した投資有価証券の売却益がなくなっていることから減少しました。

この結果、受注高は76億92百万円（前年同期比8.8%減）、売上高は78億62百万円（同4.4%増）、セグメント利益は5億72百万円（同18.9%減）となりました。

③ Daifuku North America Holding Company (DNAHC) グループ

受注は、一般製造業・流通業向けシステムはeコマースがけん引して好調に推移し、自動車生産ライン向けシステム、半導体生産ライン向けシステムは堅調に推移しました。空港向けシステムは、大型案件の受注時期の遅れなどによる影響を受けて減少しました。

売上は、前期に大型案件を受注した自動車生産ライン向けシステム、eコマース案件がけん引した一般製造業・流通業向けシステムが大きく増加しました。

セグメント利益は、利益率が低い一部の大型案件等の影響を受けました。

この結果、受注高は378億62百万円（前年同期比10.1%減）、売上高は678億80百万円（同46.5%増）、セグメント利益は27億1百万円（同0.3%増）となりました。

④ Clean Factomation, Inc. (CFI)

受注は、在宅勤務やウェブ会議の利用が活発化したことによるデータセンター用半導体需要増が加わり、順調に推移し、売上は、前期の受注が減少した影響を受けました。セグメント利益は、堅調に推移しました。

この結果、受注高は216億32百万円（前年同期比52.2%増）、売上高は138億15百万円（同15.1%減）、セグメント利益は20億52百万円（同5.4%増）となりました。

⑤ その他

「その他」は、当社グループを構成する連結子会社67社のうち、上記②③④以外の国内外の子会社です。これら各社は、マテリアルハンドリングシステム・機器、洗車機の製造や販売等を行っています。主な子会社の状況は、次のとおりです。

国内子会社：

株式会社ダイフクプラスモアは、サービスステーション、カーディーラー向けの洗車機に加え、トラック・バス用の大型洗車機の拡販を強化していますが、販売台数が減少しました。

海外子会社：

中国、台湾、韓国、タイ、インドなどに生産拠点があり、グローバルな最適地生産・調達体制の一翼を担いつつ、販売・工事・サービスも行っています。

また、北中米、アジア、欧州、オセアニアに販売・工事・サービスを行う海外子会社を幅広く配置しています。

中国や韓国等で大型案件を受注したものの、全般に新型コロナウイルス感染症による社会活動の制限、急速に悪化した景気の影響を受けました。この結果、受注高は408億97百万円（前年同期比9.6%減）、売上高は393億72百万円（同13.4%減）、セグメント利益は10億89百万円（同30.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

資産は、前連結会計年度末に比べ214億4百万円増加し、4,322億92百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が143億89百万円、受取手形・完成工事未収入金等が36億69百万円増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ127億70百万円増加し、1,863億2百万円となりました。主な要因は、短期借入金が137億84百万円増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ86億33百万円増加し、2,459億90百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が92億12百万円増加したことによるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ143億92百万円増加し、852億76百万円となりました。

営業活動による資金の増加は、主にたな卸資産の増加額が60億56百万円あったものの、税金等調整前四半期純利益が201億83百万円あったことにより、122億62百万円(前年同四半期は60億20百万円の増加)となりました。

投資活動による資金の減少は、主に固定資産の取得による支出が40億73百万円あったことにより、42億54百万円(前年同四半期は64億28百万円の減少)となりました。

財務活動による資金の増加は、主に配当金の支払額が56億78百万円あったものの、短期借入金の借入による収入が137億83百万円あったことにより、73億94百万円(前年同四半期は123億45百万円の減少)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、2020年8月6日に公表した2021年3月期の通期連結累計期間の業績予想数値に変更はありません。詳細は、サマリーをご参照ください。

なお、受注高は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う移動制限等による商談の遅延が、受注時期や計画の進捗にさらに影響を与えることが見込まれるため、2020年8月6日公表の通期予想数値の4,800億円に対し、4,600億円(4.2%減)を見込んでいます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	70,907	85,296
受取手形・完成工事未収入金等	202,712	206,382
商品及び製品	6,453	7,081
未成工事支出金等	11,169	13,144
原材料及び貯蔵品	15,720	18,976
その他	13,103	10,560
貸倒引当金	△383	△702
流動資産合計	319,683	340,740
固定資産		
有形固定資産	47,343	47,807
無形固定資産		
のれん	4,891	4,657
その他	5,242	5,673
無形固定資産合計	10,133	10,331
投資その他の資産		
その他	33,896	33,578
貸倒引当金	△169	△164
投資その他の資産合計	33,727	33,413
固定資産合計	91,204	91,552
資産合計	410,887	432,292
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	46,509	43,109
電子記録債務	22,587	21,922
短期借入金	11,772	25,556
未払法人税等	2,599	6,085
未成工事受入金等	33,091	33,572
工事損失引当金	263	311
その他	21,870	21,318
流動負債合計	138,695	151,876
固定負債		
長期借入金	21,645	21,255
退職給付に係る負債	8,082	7,928
その他の引当金	330	277
その他	4,777	4,964
固定負債合計	34,836	34,425
負債合計	173,531	186,302

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,865	31,865
資本剰余金	21,987	21,982
利益剰余金	179,292	188,504
自己株式	△1,430	△1,116
株主資本合計	231,714	241,235
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,716	3,559
繰延ヘッジ損益	△89	△135
為替換算調整勘定	1,038	△1,523
退職給付に係る調整累計額	△2,419	△1,927
その他の包括利益累計額合計	1,246	△26
非支配株主持分	4,394	4,780
純資産合計	237,356	245,990
負債純資産合計	410,887	432,292

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	208,734	230,006
売上原価	169,926	188,501
売上総利益	38,808	41,504
販売費及び一般管理費		
販売費	8,559	8,248
一般管理費	12,961	13,586
販売費及び一般管理費合計	21,521	21,834
営業利益	17,286	19,669
営業外収益		
受取利息	302	212
受取配当金	247	234
為替差益	—	226
受取賃貸料	108	109
その他	252	314
営業外収益合計	910	1,098
営業外費用		
支払利息	401	322
為替差損	69	—
その他	107	100
営業外費用合計	577	423
経常利益	17,619	20,344
特別利益		
固定資産売却益	8	3
投資有価証券売却益	777	—
その他	1	—
特別利益合計	786	3
特別損失		
固定資産除売却損	9	164
特別損失合計	9	164
税金等調整前四半期純利益	18,396	20,183
法人税、住民税及び事業税	3,177	5,584
法人税等調整額	1,769	△351
法人税等合計	4,946	5,233
四半期純利益	13,450	14,950
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	13,168	14,732
非支配株主に帰属する四半期純利益	281	217

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△781	845
繰延ヘッジ損益	64	△46
為替換算調整勘定	△2,408	△2,576
退職給付に係る調整額	248	501
持分法適用会社に対する持分相当額	△7	△9
その他の包括利益合計	△2,884	△1,284
四半期包括利益	10,565	13,665
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,524	13,459
非支配株主に係る四半期包括利益	40	206

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	18,396	20,183
減価償却費	2,678	3,072
受取利息及び受取配当金	△549	△447
支払利息	401	322
投資有価証券売却損益(△は益)	△777	—
売上債権の増減額(△は増加)	8,380	△5,333
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,265	△6,056
仕入債務の増減額(△は減少)	△6,494	△2,987
未成工事受入金の増減額(△は減少)	774	27
その他	△1,728	2,812
小計	17,813	11,593
利息及び配当金の受取額	547	432
利息の支払額	△394	△374
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△12,194	311
その他の収入	248	301
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,020	12,262
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△4,860	△4,073
固定資産の売却による収入	23	13
投資有価証券の売却による収入	1,154	—
投資有価証券の取得による支出	△339	△15
関係会社株式の取得による支出	△2,411	—
その他	5	△178
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,428	△4,254
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△4,111	13,783
長期借入金の返済による支出	△390	△377
自己株式の取得による支出	△3	△8
配当金の支払額	△7,551	△5,678
その他	△288	△325
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,345	7,394
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,389	△1,782
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△14,142	13,619
現金及び現金同等物の期首残高	90,903	70,883
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	772
現金及び現金同等物の四半期末残高	76,760	85,276

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイフク	コンテック	DNAHC	CFI	計		
売上高							
外部顧客への売上高	93,780	7,532	46,338	16,270	163,921	45,444	209,366
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18,555	4,535	382	2,458	25,932	6,664	32,596
計	112,335	12,067	46,720	18,729	189,853	52,109	241,963
セグメント利益	7,414	705	2,694	1,946	12,760	835	13,596

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その内容は国内外の子会社です。

2 報告セグメントの売上高及び利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	金額
報告セグメント計	189,853
「その他」の区分の売上高	52,109
セグメント間取引消去	△32,596
その他の連結上の調整額	△631
四半期連結財務諸表の売上高	208,734

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	12,760
「その他」の区分の利益	835
関係会社からの配当金の消去	△117
その他の連結上の調整額	△310
四半期連結財務諸表の 親会社株主に帰属する四半期純利益	13,168

II 当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイフク	コンテック	DNAHC	CFI	計		
売上高							
外部顧客への売上高	99,928	7,862	67,880	13,815	189,488	39,372	228,860
セグメント間の内部売上高 又は振替高	17,607	5,834	154	1,154	24,751	5,549	30,300
計	117,536	13,697	68,035	14,970	214,240	44,921	259,161
セグメント利益	9,744	572	2,701	2,052	15,070	1,089	16,160

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その内容は国内外の子会社です。

2 報告セグメントの売上高及び利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	金額
報告セグメント計	214,240
「その他」の区分の売上高	44,921
セグメント間取引消去	△30,300
その他の連結上の調整額	1,145
四半期連結財務諸表の売上高	230,006

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	15,070
「その他」の区分の利益	1,089
関係会社からの配当金の消去	△765
その他の連結上の調整額	△663
四半期連結財務諸表の 親会社株主に帰属する四半期純利益	14,732